

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ	履修学年	中学 高校	2年	2	4	5	組	
単位数	4単位	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT数学Ⅲ								
担当者	長尾、竹田、山内		数研出版 CONNECT数学Ⅲ+C 数研出版 チャート式Ⅲ+C								
学習目標	数学Ⅲの内容を学習していく中で、「知識・技能」の習得、「思考・判断・表現」力の養成、「主体的に学習に取り組む姿勢」の育成を目指す。										
評価方法											
評価観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	・ 授業や教科書などで学んだ数学的な内容や公式などを理解している。 ・ 問題に対し、学んだ数学的知識を利用して適切な計算をすることができる。			・ 文字式や関数・方程式などの知識などを活用し、それらを組み合わせて論理的に考察することができる。 ・ 自分の考えや解法を正しく表現することができる。 ・ 採点者に分かりやすい解答を作成できる。			・ 宿題にコツコツ取り組むなど、粘り強く学習に取り組んでいる。 ・ 粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習をより良く調整できるように意識している。				
各観点の授業内 評価方法等	①定期考査1枚目(基本問題) →教科書の例題や問題集のA問題などを中心に出題し、公式が正しく使えるか、正確に計算が行えるかを問う。 ②授業内外の小テスト、到達度テストなど			①定期考査2枚目(応用問題) →教科書の応用例題や問題集のB、C問題などを中心に出題し、難易度の高い問題に対して最適な思考を行い、自分の考えを分かりやすく解答できるかを問う。			①宿題や課題、小テストへの取り組み・提出状況 ②より良い学習への取り組み・調整				
学期末の 各観点比率(%)	約50%			約30%			約20%				
授業計画											
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等							時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【数学Ⅲ】第1章 関数 第2章 極限 第1節 数列の極限							約18	中間考査	到達度確認テスト①
	5	中間考査									
	6	第2節 関数の極限 第3章 微分法 第1節 導関数							約19	期末考査	
		期末考査									
	7	第2節 いろいろな関数の導関数							約4		
	8	【夏期講習会】 【夏休みの課題】									
2	9	第4章 微分法の応用 第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分							約18	中間考査	到達度確認テスト②
	10	中間考査									
	11	第2節 定積分 第3節 積分法の応用							約22	期末考査	
		期末考査									
12	【数学C】第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 【冬休みの課題】							約6			
3	1	第1節 2次曲線 の続き 第2節 媒介変数表示と極座標							約18	学年末考査	
	2	学年末考査									
	3	【春期講習会】 【春休みの課題】									

教科名	数学	科目名	数学C	履修学年	中学 高校	2	年	2	組
単位数	2	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT 数学B, 数学C						
担当者	渡辺		数研出版 CONNECT 数学II+B, 数学III+C						
学習目標	平面ベクトル, 空間ベクトル, 複素数平面, 統計的な推測の概念とそれら自身がもつ性質を理解することを目標とする。また, 事象を数学的に考察する能力を培い, そこから一般化や抽象化を考慮することでより高度な数学の力を身に付ける。振り返りを通じて学習課題を見出し, 質の高い自学ができるようになることを目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢		
評価規準	授業および教科書を通して学んだ基本的事項や原理法則等を理解している。 また, 問題に対して学習した内容の理解および知識を利用して, 数学的な処理ができる。			数や式, グラフ, 図形等の知識・技能を活用し, それらを組み合わせて諸問題に対応しようとしている。 また, 自分の考えや解法を正しく表現・説明しようとしている。			知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を身につけるために, 積極的に授業に参加したり諸問題に粘り強く取り組みを行おうとしている。		
各観点の授業内 評価方法等	定期考査			定期考査, 授業課題, 課題レポート			問題集への取り組み 授業等の振り返り 自主設定課題への取り組み		
学期末の 各観点比率(%)	30%			40%			30%		
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間 数	評価 区分 1	評価 区分 2
1	4	【数学C】 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算					11	1 学期 中間 考査	到達 度 確 認 テ ス ト ①
	5	中 間 考 査							
	6	第2節 ベクトルと平面図形					10	期 末 考 査	
	7	期 末 考 査							
2	8	第2章 空間のベクトル 空間のベクトル					2	2 学 期 中 間 考 査	
	9	ベクトルの成分 ベクトルの内積 ベクトルの図形への応用							
	10	中 間 考 査					10	期 末 考 査	
	11	座標空間における図形 第3章 複素数平面 複素数平面 複素数の極形式							
12	期 末 考 査					12			
3	1	【数学B】 第1章 確率分布					4	学 年 末 考 査	
	2	学 年 末 考 査							
	3						9		

教科名	数学	科目名	数学C	履修学年	中学 (高校)	2年	1	3組	
単位数	3単位	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT数学B, C						
担当者	長尾、相澤		数研出版 CONNECT数学II+B, C						
学習目標	数学B、Cの内容を学習していく中で、「知識・技能」の習得、「思考・判断・表現」力の養成、「主体的に学習に取り組む姿勢」の育成を目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	・ 授業や教科書などで学んだ数学的な内容や公式などを理解している。 ・ 問題に対し、学んだ数学的知識を利用して適切な計算をすることができる。		・ 文字式や関数・方程式などの知識などを活用し、それらを組み合わせて論理的に考察することができる。 ・ 自分の考えや解法を正しく表現することができる。 ・ 採点者に分かりやすい解答を作成できる。			・ 宿題にコツコツ取り組むなど、粘り強く学習に取り組んでいる。 ・ 粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習をより良く調整できるように意識している。			
各観点の授業内 評価方法等	①定期考査1枚目(基本問題) →教科書の例題や問題集のA問題などを中心に出題し、公式が正しく使えるか、正確に計算が行えるかを問う。 ②授業内外の小テスト、到達度テストなど		①定期考査2枚目(応用問題) →教科書の応用例題や問題集のB、C問題などを中心に出題し、難易度の高い問題に対して最適な思考を行い、自分の考えを分かりやすく解答できるかを問う。			①宿題や課題、小テストへの取り組み・提出状況 ②より良い学習への取り組み・調整			
学期末の 各観点比率(%)	約50%		約30%			約20%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【数学B】第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 4 二項分布 まで					約15	中間考査	到達度確認テスト①
	5	中 間 考 査							
	6	5 正規分布 第2節 統計的な推測 8 推定 まで					約13	期末考査	
	7	期 末 考 査							
	8	9 仮説検定					約3		
	8	【夏期講習会】 【夏休みの課題】							
2	9	【数学C】第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算					約15	中間考査	到達度確認テスト②
	10	中 間 考 査							
	11	第2節 ベクトルと平面図形					約15	期末考査	
	12	期 末 考 査							
	12	演習					約3		
12	【冬休みの課題】								
3	1	第2章 空間のベクトル					約17	学年末考査	
	2	学 年 末 考 査							
	3	【春期講習会】 【春休みの課題】							

教科名	数学	科目名	数学C	履修学年	中学 高校	2 年	4・5 組		
単位数	2	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT 数学B, 数学C						
担当者	渡辺		数研出版 CONNECT 数学Ⅱ+B, 数学Ⅲ+C						
学習目標	平面ベクトル, 空間ベクトル, 複素数平面, 統計的な推測の概念とそれら自身もつ性質を理解することを目標とする。また, 事象を数学的に考察する能力を培い, そこから一般化や抽象化を試みられるようになることを目指す。振り返りを通じて学習課題を見出し, 学習サイクルを身に付け実施することを目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	授業および教科書を通して学んだ基本的事項や原理法則等を理解している。 また, 問題に対して学習した内容の理解および知識利用して, 数学的な処理ができる。		数や式, グラフ, 図形等の知識・技能を活用し, それらを組み合わせて諸問題に対応しようとしている。 また, 自分の考えや解法を正しく表現・説明しようとしている。		知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を身につけるために, 積極的に授業に参加したり諸問題に粘り強く取り組みを行おうとしている。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査		定期考査, 授業課題		問題集への取り組み 授業等の振り返り 自主設定課題への取り組み				
学期末の 各観点比率(%)	50%		20%		30%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【数学C】 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算					11	1 学期 中間 考査	到達 度 確 認 テ ス ト ①
	5	中 間 考 査							
	6	第2節 ベクトルと平面図形					10	期 末 考 査	
	7	期 末 考 査							
2	8	第2章 空間のベクトル 空間のベクトル					2	2 学期 中 間 考 査	到達 度 確 認 テ ス ト ②
	9	ベクトルの成分 ベクトルの内積 ベクトルの図形への応用							
	10	中 間 考 査							
	11	座標空間における図形 第3章 複素数平面 複素数平面 複素数の極形式					12	期 末 考 査	
	12	期 末 考 査							
3	ド・モアブルの定理 複素数と図形					3			
3	1	【数学B】 第1章 確率分布					11	学 年 末 考 査	
	2	学 年 末 考 査							
	3								

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	履修学年	中学 高校	2年	6組		
単位数	3単位	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT数学Ⅱ						
担当者	長尾		数研出版 CONNECT数学Ⅱ+B						
学習目標	数学Ⅱの内容を学習していく中で、「知識・技能」の習得、「思考・判断・表現」力の養成、「主体的に学習に取り組む姿勢」の育成を目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	・ 授業や教科書などで学んだ数学的な内容や公式などを理解している。 ・ 問題に対し、学んだ数学的知識を利用して適切な計算をすることができる。		・ 文字式や関数・方程式などの知識などを活用し、それらを組み合わせて論理的に考察することができる。 ・ 自分の考えや解法を正しく表現することができる。 ・ 採点者に分かりやすい解答を作成できる。		・ 宿題にコツコツ取り組むなど、粘り強く学習に取り組んでいる。 ・ 粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習をより良く調整できるように意識している。				
各観点の授業内 評価方法等	①定期考査1枚目(基本問題) →教科書の例題や問題集のA問題などを中心に出題し、公式が正しく使えるか、正確に計算が行えるかを問う。 ②授業内外の小テスト、到達度テストなど		①定期考査2枚目(応用問題) →教科書の応用例題や問題集のB、C問題などを中心に出題し、難易度の高い問題に対して最適な思考を行い、自分の考えを分かりやすく解答できるかを問う。		①宿題や課題、小テストへの取り組み・提出状況 ②より良い学習への取り組み・調整				
学期末の 各観点比率(%)	約50%		約30%		約20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【数学Ⅱ】第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円					約18	中間考査	到達度確認テスト①
	5	中 間 考 査							
	6	第3節 軌跡と領域 第4章 三角関数 第1節 三角関数					約19	期末考査	
		期 末 考 査							
	7	第1節 三角関数 続き					約4		
8	【夏期講習会】 【夏休みの課題】								
2	9	第2節 加法定理					約18	中間考査	到達度確認テスト②
	10	中 間 考 査							
	11	第5章 指数関数と対数関数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数					約22	期末考査	
		期 末 考 査							
12	第1節 微分係数と導関数 続き					約6			
		【冬休みの課題】							
3	1	第2節 関数の値の変化 第3節 積分法					約18	学年末考査	
	2	学 年 末 考 査							
	3	【春期講習会】 【春休みの課題】							

教科名	数学	科目名	数学B	履修学年	中学 高校	2年	6組		
単位数	2	使用教科書 補助教材等	数研出版 NEXT 数学B 数学C						
担当者	永野		数研出版 CONNECT 数学II+B 数学III+C						
学習目標	数列, 統計的な推測, ベクトルを学ぶ上で, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 来年の大学入試において, 文系数学を選択した際に対応できるように基礎力, 数学的に考察する能力を養い, 育てていく。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	基本的事項、公式などを理解しているか。そしてそれらを用いて問題を解くことができるか。		グラフや図形等の知識・技能を活用し、それらを組み合わせることで諸問題に対応しようとしているか。また、自分の考えや解法を正しく表現・説明しているか。		積極的に授業に参加しているか。授業中に取り上げた問題に真摯に取り組んでいるか。自ら必要な課題を設定しそれに取り組んでいるか。				
各観点の授業内 評価方法等	定期考査100点のうち、基本問題を6割程度出題。そのうち、30%以上とれていれば「2」、60%以上とれていれば「3」、80%以上とれていれば「4」をつける。		定期考査100点のうち、応用問題を4割程度出題。そのうち、30%以上とれていれば「2」、70%以上とれていれば「3」をつける。		「調整」と「粘り強く学習に向かう姿勢」で総合判断する。「調整」とはよりよく学習に向かうための努力を意味する。具体的には振り返りや課題の設定の仕方を指す。「粘り強く学習に向かう姿勢」とは出された課題に真摯に取り組んでいるかなどを評価する。これらを総合的に見て評価を付ける。				
学期末の 各観点比率(%)	40%		30%		30%				
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	【 数学B 】 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列					7	1 学期 中間 考査	到達度 確認 テスト ①
	5								
	6	第1章 数列 第2節 いろいろな数列					9	期末 考査	
	7	第3節 漸化式と数学的帰納法 漸化式					2	2 学期 中間 考査	
	8								
2	9	漸化式と数学的帰納法 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布					8	中間 考査	到達度 確認 テスト ②
	10	1 確率変数と確率分布							
	11	第2節 統計的な推測 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布 5 正規分布					13	期末 考査	
	12	第2節 統計的な推測 6 母集団と標本					2		
3	1	第2節 統計的な推測 7 標本平均と分布 8 推定 9 仮説検定					8	学年 末 考査	
	2	【数学C】 第1章 平面上のベクトル 1 ベクトル 2 ベクトルの演算	学年末考査						
	3								

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	履修学年	中学 高校	2年	7/8/9	組	
単位数	4	使用教科書 補助教材等	NEXT 数学Ⅱ Ⅲ						
担当者	樋田 永野		CONNECT 数学Ⅱ +B+C, 数学Ⅲ						
学習目標	基礎基本を習得し先取りを目指しながら受験に備える								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	定期考査60点分で基礎・計算問題の速さと正確さを基準とする		定期考査40点分+到達度確認テスト・模試 特に模試において一般的に通用する記述ができるかを基準とする			学習を他人事にせず自分のこととして取り組みただ解答写すことのないような姿勢があるかを基準とする			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査・基礎問題		考査応用・到達度確認テスト 模試			提出物等			
学期末の 各観点比率(%)	40%		30%			30%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	第3章 図形と方程式					19	中間考査	到達度確認テスト①
	5	中間考査							
	6	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 から					18	期末考査	
	7	第3節 定積分まで 期末考査							
	8	授業最終日まで 定積分関数 夏期講習会 数列							
2	9	第6章 微分法と積分法 第3節 定積分面積からすべて					20	中間考査	到達度確認テスト②
	10	数学Ⅲ 第2章 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限 無理関数まで 中間考査							
	11	第3章 微分法 第2節 指数関数の微分まで					22	期末考査	
	12	授業最終日 いろいろな導関数まで							
3	1	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用					19	学年末考査	
	2	第5章 積分法 第1節 不定積分 部分積分まで 学年末考査							
	3	春期講習 定積分							

教科名	数学	科目名	数学B	履修学年	中学 <u>高校</u>	2年	7/8/9	組	
単位数	2	使用教科書 補助教材等	NEXT 数学Ⅱ B C						
担当者	加来		CONNECT 数学Ⅱ +B+C						
学習目標	基礎基本を習得し先取りを目指しながら受験に備える								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	定期考査60点分で基礎・計算問題の速さと正確さを基準とする		定期考査40点分+到達度確認テスト・模試 特に模試において一般的に通用する記述ができるかを基準とする			学習を他人事にせず自分のこととして取り組みただ解答写すことのないような姿勢があるかを基準とする			
各観点の授業内 評価方法等	定期考査・基礎問題		考査応用・到達度確認テスト 模試			提出物等			
学期末の 各観点比率(%)	40%		30%			30%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	第4章 三角関数 第1節 三角関数					9	中間考査	到達度確認テスト①
	5	中間考査							
	6	第2節 加法定理					5	期末考査	
		第5章 第1節 指数関数							
	7	第2節 対数関数 底の変換公式 期末考査					4		
8	授業最終日まで 対数のまとめ 夏期講習会 数列 第1期・2期					2 12			
2	9	第5章 第2節 対数関数残り 数学C 平面上のベクトル					3	中間考査	到達度確認テスト②
	10	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその計算 中間考査					7		
	11	第2節 ベクトルと平面図形					10	期末考査	
	12	期末考査							
授業最終日 第2章 空間のベクトル さわりだけ						2			
3	1	第2章 空間のベクトル					9		
	2	学年末考査							
	3								